

# かお・人・interview

2023年7月6日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
阿蘇砂防事務所 所長

## 坂井佑介氏

Yusuke SAKAI

開所して3年目の阿蘇砂防事務所。土石流対策のために作られる堰堤は25基程度、今年3月に6基目の上の小屋川2が完成し、阿蘇地域の防災対策強化は順調に進んでいる。だからこそ、砂防堰堤というハード面とともに砂防事業のソフト面、土砂災害の対策や避難体制の整備など、地域の防災力向上と協力的体制の構築にも努めたいと坂井所長は語る。現在取り組んでいる事業や課題などについて話を伺った。

### Q所長就任にあたっての抱負

阿蘇山直轄砂防事業は平成30年度から着手し、阿蘇砂防事務所は令和3年度に新たな組織として開所しました。当事務所は阿蘇カルデラ内の砂防事業を所掌しており、その中で、阿蘇山の火山噴火対策に関する調査も実施しています。阿蘇地域は全国でも有数の観光地であり、経済的にも非常に重要な地域です。特徴的な景観、世界屈指のカルデラを中心に雄大な風景が広がります。肥沃な大地、美しい水源も多く、豊かな自然の恵みを受けていますが、その反面、災害が頻発するエリアです。阿蘇カルデラ内では、平成2年一の宮災害、平成24年九州北部豪雨、平成28年熊本地震と甚大な被害をもたらす土砂災害が発生しました。近年は阿蘇山が噴火警戒レベル3になるなど、活発な火山活動も続いています。

このような防災面・経済面の両面から重要な地域の安全・安心を確保するという重責を肝に命じて、災害への備えを強化したいと思います。そして、重要な地域で実施している砂防事業の取り組みを九州内外に発信して、九州の砂防事業をリードできるようにしたいと考えています。



▲令和5年3月に完成した上の小屋川2砂防堰堤

### Q九州や福岡県とのかかわり

国土交通省に入省して17年目、九州には今回で3度目の赴任です。初めは平成21、22年度に鹿児島県土木部砂防課へ出向し、2度目は平成25～27年度に九州地方整備局九州技術事務所火山防災減災課と平成28、29年度に九州地方整備局河川部河川計画課で勤務しました。熊本県との関わりも深く、九州技術事務所

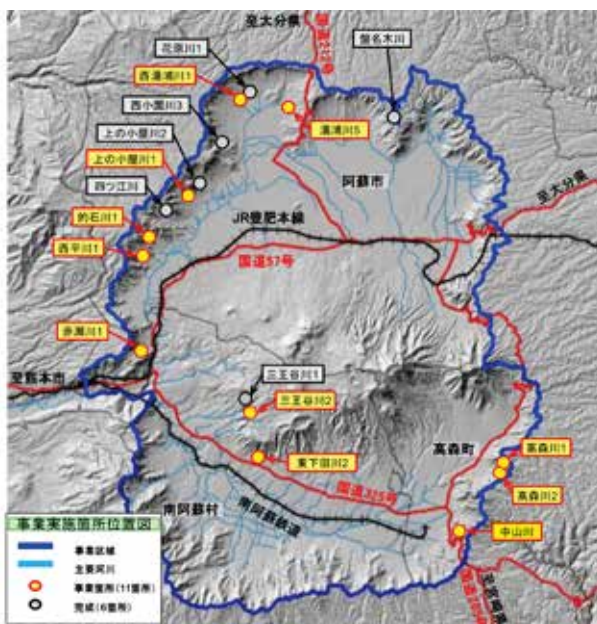


では課長として、阿蘇山の調査や平成27年度の阿蘇火山砂防フォーラムの開催に関する仕事に携わりました。九州地方整備局河川部では課長として、熊本地震における白川・緑川の堤防復旧や阿蘇大橋地区斜面防災対策の実施、そして阿蘇山直轄砂防事業の新規事業としての立ち上げにも携わりました。その後、前職である国土技術政策総合研究所土砂災害研究部では熊本地震で発生した土砂災害が研究テーマでした。このような思い入れがある場所で

仕事ができることはとても感慨深いものがあります。

熊本地震発生時に九州地方整備局に在籍していたことから、地震後の阿蘇地域を現地調査や視察で直接見ており、地震直後に斜面崩壊や土石流が数多く発生した現場を見て、心を痛めていました。この度、6年ぶりに熊本県と阿蘇地域に携わる仕事をする事となり、就任直後から何度か阿蘇地域を訪れました。阿蘇大橋地区斜面防災対策の完了や国道57号北側復旧道路・現道、新阿蘇大橋等の開通した様子、観光客が多く飲食店に行列ができる様子を見て、阿蘇地域の復興が着実に進み、活力が戻ってきていることを実感しています。

事業実施箇所位置図（令和5年度）



## Q 当事務所の紹介

当事務所では、阿蘇カルデラ内を対象とした阿蘇山直轄砂防事業を平成30年度から着手し、熊本地震とその後の降雨により土砂・流木災害のリスクが高まっている箇所において、集中的な砂防施設の整備を進めています。具体的には、約260億円の事業費をもって土石流対策のための砂防堰堤を25施設程度の整備を計画。また、活動が活発な阿蘇山の調査も所掌となっており、令和3年10月の噴火では、土石流の危険性が高まっているか

を調べるための降灰量調査を実施しています(結果として、土石流による被害が切迫した状況ではないことを確認)。事務所の組織は総務課・工務課・調査課の3課と、直轄事務所の規模としてはそれほど大きくありませんが、事務所一丸となり地域に密着して事業を進めていきます。

## Q 今年度の事業概要

令和3年度に1施設、令和4年度に5施設と順調に砂防堰堤の整備を進めてまいりました。今年度は、当初予算約20億円の事業費を以て、11カ所で工事や測量・設

阿蘇地域は火山の恩恵によって美しい景観が生まれ非常に集客力がある観光地になっています。その反面、災害も多く発生している。暮らしと命を守るのが砂防堰堤の役目です。



計を進めることにより、さらなる地域の安全・安心の確保に努めます。工事の実施にあたり、昨年度から砂防堰堤工事における生産性向上の取り組みとして、コンクリート配合の工夫を行っています。具体的には、従来のスランプ5からポンプ車による打設が可能なスランプ8のコンクリートも使用することにより、工期の短縮に取り組んでいます。今後とも、効率的な砂防工事を進めてまいります。



▲スランプ8のコンクリートを使用したポンプ車打設

## Q 地域との連携・協働について

阿蘇地域は災害が多いことは前述しました。砂防堰堤の整備による土石流被害の防止・軽減はもちろんですが、地域の方々との協力による防災力向上も重要だと考えます。これまでも、地元の学校で土砂災害に関する出前講座や熊本大学と連携して地域の皆さまに土砂災害とその対策について啓発活動を行ってきました。

好評を得ているのは、旧立野小学校を拠点として熊本

大学が運営するワークショップ「阿蘇サイエンスカフェ」です。阿蘇の自然や歴史を紹介するさまざまな講座を企画しています。その中のひとつカルデラウォークという講座を去年、当事務所の職員が受け持ちました。カルデラ壁がどのようなものか、砂防堰堤の役割などを伝えたものですが、今年も是非と声をかけていただきました。また、砂防を学んでいる大学生を対象にした「キャンプ砂防」も行われます。この機会を利用して砂防事業を体験してほしいと思います。

今後も出前授業などで、砂防堰堤のハード対策だけでなく、豪雨時の避難などソフト

阿蘇サイエンスカフェ▶



▲キャンプ砂防



▼施工工事(西平)

阿蘇の景観を崩さないよう砂防堰堤は、位置、配色など、十分に配慮した作りになっています。





▲防災教育の出前講座(阿蘇中学校)

対策も同時に進めていきたいと考えます。阿蘇地域は世界文化遺産の登録を目指しており、その中でも広大な草原が大きな魅力となっています。このことから、景観対策は非常に重要であり、阿蘇砂防事務所では景観形成ガイドラインも取りまとめています。

## Q 地域建設業への要望・メッセージ

自然災害に強い国づくり・地域づくりを目指すため、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策が進められています。砂防事業は山間部の狭隘な現場も多く、ご苦労が多い中、心より感謝を申し上げます。そして、いざ災害が発生した際に、迅速に対応していただける地域建設業界の皆さまには、今後も大きな期待が寄せられています。この他、地域建設業界の皆さまには、完成した砂防堰堤の見学会や草地保全のための



▲野焼き

野焼き活動への参加など、地域活動にもお力添えをいただいています。阿蘇地域を盛り上げ、かつ地域の安全・安心を確保できるよう、地域建設業界の皆さまと共に進めていきたいと考えています。

一方で、建設業界は担い手確保・定着が大きな課題です。特に若い世代の建設業界への入職や育成が急



▲無人化施工訓練

務となっています。働き方改革関連法による労働基準法の改正により、令和6年4月から罰則付きの時間外労働規制の建設業への適用など、建設業界は大きな転換期を迎えている状況です。当事務所でも工期の適正化や建設DXを始めとした「生産性向上」などさまざまな試みを進めています。他に、建設業協会との定期的な意見交換を実施するなど、よりよい現場づくりにも取り組んでまいります。

## Q 趣味や健康法について

趣味は料理です。6年前から単身赴任を機に自炊を楽しんでいます。日常と違う時間を取り入れるのは、いい気分転換になっています。

健康を意識して、休日は阿蘇カルデラ内を自転車で走っています。この自転車は折りたたみで、電車好きの子供と一緒に旅行ができるよう、あえて移動に便利なタイプにしました。これまで、南阿蘇村の白川水源周辺、高森町の高森駅周辺、阿蘇市の宮地駅周辺を回りました。事前調査はバッチリできていますので、赴任している間に旅行を実現させるつもりです。美しい景色の中で、自転車だからこそ発見できることも多く、時間が許す限り楽しみたいと思います。

### プロフィール



出身地：福井県  
 生年月日：1981年6月5日（42歳）  
 H19年4月 北陸地方整備局 湯沢砂防事務所 流域対策課  
 H20年4月 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 交通対策課  
 H21年4月 鹿児島県土木部砂防課  
 H22年10月 林野庁森林整備部治山課（H23.4より、地すべり係長）  
 H25年5月 九州地方整備局 九州技術事務所 火山防災減災課 課長  
 H28年4月 九州地方整備局 河川部河川計画課 課長  
 H30年4月 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部砂防研究室 主任研究官

R 5年4月 現職